

Digital Future Hexagon

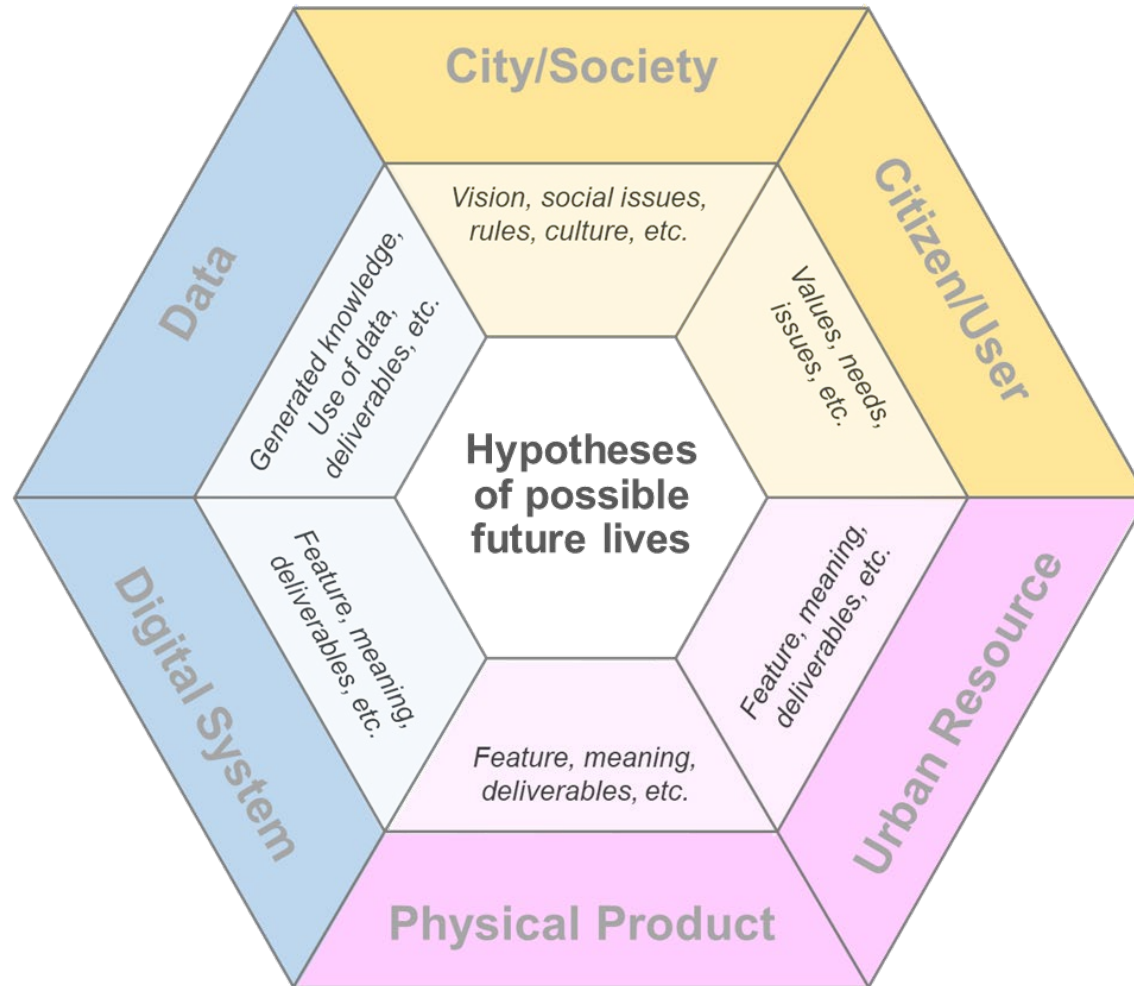
手法の概要

Social（社会）、Digital（デジタル）、Physical（物理的な現実世界）の3つの側面を包括的に考慮しながら、未来の生活像の可能性を構想するためのフレームワークです。

対象とする都市や地域の現状分析と、未来の生活像を構想するために活用できます。

手法の使い方

1. ヘキサゴンの外側のレイヤに、現状の事実（ファクト）を記入します。例えば、Citizen/Userのカテゴリには、現状、都市や地域にどのような市民がいるかを記入します。
2. ヘキサゴンの内側のレイヤに、外側のレイヤの書いた要素を、一段階具体的に解釈した情報を記入します。Citizen/Userのカテゴリであれば、市民のニーズや求める価値について記入します。
3. それぞれのカテゴリの内側に記入された要素を掛け合わせ、強制発想を行うことで、未来の生活像の可能性を構想し、ヘキサゴンの真ん中のスペースに記入します。



(参考文献)

Fumiya Akasaka, Yuya Mitake, Kentaro Watanabe, Yuri Nishikawa, Jun Ozawa (2023). Digital Future Design: Designing Digital Service Systems based on Future Visions, In Proc. the ServDes2023, pp. 1277-1298